

広島県立文書館「収蔵文書展」の開催について

1 要旨・目的

広島県立文書館では、県民に収蔵文書を紹介するため、大規模展示「収蔵文書展」を例年3月末から開催している。

今回は、令和2年度に開催した収蔵文書展「災害を語る歴史資料」に続き、広島県内で発生した過去の大規模災害に関する資料を取り上げ、「災害を語る歴史資料Ⅱ」と題して次のとおり開催する。

この展示では、特に水害に焦点を当てて、近世の広島城下やその周辺で発生した洪水に関する古文書や、明治から昭和戦前頃までの太田川など河川流域での水害に関する資料を展示する。

また、被災した資料の今後の保存と活用方法を考える契機とするため、「平成30年7月豪雨」の際に当館が応急処置をした被災資料も展示する。

2 現状・背景

広島県立文書館では、県に関する歴史資料として重要な行政文書、古文書等の収集及び保存を行っており、これらを広く県民に紹介するため、収蔵文書展のほか、小規模の展示（収蔵文書の紹介展）を年3回程度開催している。

3 概要

(1) 開催期間

令和5年3月28日（火）～6月10日（土）

(2) 開催場所

広島県立文書館 展示室

（広島市中区千田町三丁目7番47号 広島県情報プラザ2階）

(3) 時間

月～金曜日：9時～17時、土曜日：9時～12時 ※日曜日及び祝休日は休館

(4) 入場料

無料

4 その他

文書館ホームページや各種広報媒体のイベント情報に掲載するとともに、県内全域の関係施設に展示図録やチラシを配布する予定である。

※広島県文書館ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/monjokan/>

また、収蔵文書展のテーマに関連した「文書館講演会（展示説明会）」を開催する（4月上旬に参加者募集開始予定）。

日時：令和5年6月3日（土） 10:00～12:00

会場：広島県情報プラザ2階 第1・2研修室

広島県立文書館収蔵文書展

災害を語る歴史資料 Ⅱ



大正8年7月豪雨における広島県物産陳列館（現・原爆ドーム）と元安川 児玉家文書（201713-241）

令和5年3月28日(火)～6月10日(土)

入場無料

広島県立文書館展示室

開館時間 9:00～17:00（土曜日は12:00まで）
日曜日・祝日・休日は休館

文書館講演会 **災害を語る歴史資料**（仮題）

※収蔵文書展に関連した内容の講演です。

開催期日：令和5年6月3日（土）10:00～12:00

開催場所：広島県情報プラザ2階 第1・2研修室

講師：西向宏介（広島県立文書館主任研究員）ほか

募集定員：80名

申込方法：電話・FAX・Eメール・往復はがきで5月26日（金）までに
お申し込みください。

広島県立文書館

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47
TEL 082-245-8444 FAX 082-245-4541
E-mail monjokan@pref.hiroshima.lg.jp



災害を語る歴史資料 II

平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）の被災からはや 5 年を迎えようとしています。平成 26 年の「広島土砂災害」とともに、大規模災害は私たちの記憶に強く残っています。

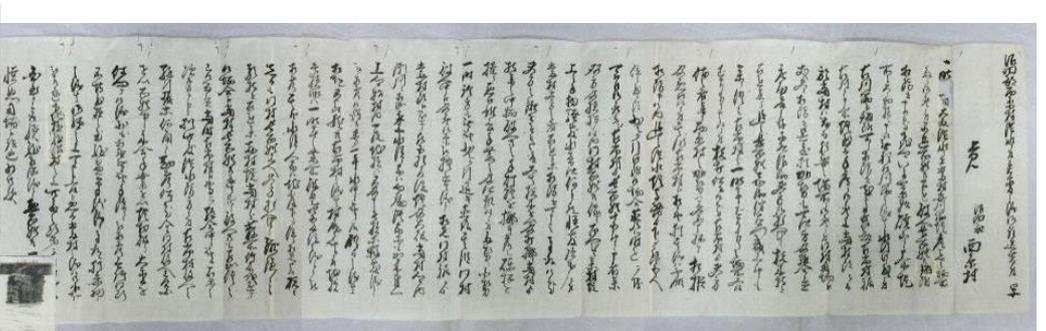
現在は新型コロナウイルス感染症との闘いが続いています。かつて大流行したスペインインフルエンザが大正 7 年（1918）から 10 年（1921）まで 3 年にわたって大規模な感染を引き起こしていたように、感染症との闘いが長期にわたるものであることを過去の経験が教えています。

私たちが経験した豪雨災害についても、歴史資料をたどれば、広島県内でも過去に幾度となく大規模災害に見舞われていたことが分かります。残された過去の資料をもとに、先人の経験や記憶を掘り起こし検証することは、いまを生きる私たちの生活にも大きな意味を持つと言えるでしょう。

この展示では、令和 2 年（2020）に開催した収蔵文書展に続き、当館が収蔵する資料の中から広島県内の災害関係資料を紹介します。今回は、特に水害に焦点を当て、安芸国を範囲とする地域を中心に紹介します。



大正 8 年 7 月豪雨水害での広島市街地の状況を写した絵葉書 児玉家文書（201713-241）

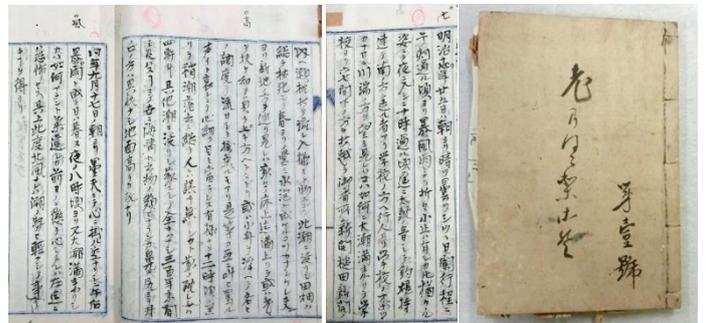
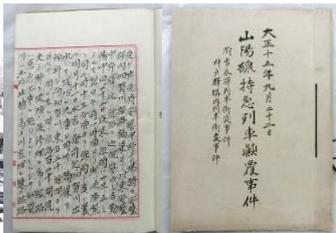


沼田郡西原村洪水被害につき注進書付（天保 2 年カ） 横山家文書（198828）

大雨による洪水が発生した際に、古川筋の防護作業をめぐる高宮郡古市村との間で起きた争論に関する沼田郡役所あての書付



大正 15 年 9 月 22 日「山陽線特急列車転覆事件」の記録と絵葉書 長船友則氏収集資料（200407-2343）



明治 17 年 8 月 25 日「海嘯」の記述 「老のくりこと」第巻号 小川家文書（200603-5-1）



整理を終えた楨林家文書（右）（201820） 寛政 6 年「当座帳」（左）（201820 箱 9-11）



太田川治水期成同盟会関係書類綴 吉本家文書（200002）

太田川放水路の建設が戦後大きく進むきっかけの一つとなった太田川治水期成同盟会の関係書類綴。同盟会の結成に関する記録や陳情団の上京記録、陳情書などが綴られている。太田川放水路の建設は、広島における長年の洪水被害との闘いを大きく変えた。

楨林家文書は、近世～昭和戦前期に醤油・酒類の醸造業を営み、下瀬野村の村長や安芸郡会議員も務めた旧家の文書。平成 30 年 7 月豪雨で大量の文書が被災したが、当館にて保全活動に取り組み、現在は応急処置を終えている。